２０２５年（令和７年）　７月２０日　日曜日

デーリー東北　１０・１１面　掲載

第107回全国高校野球選手権青森大会

光星 圧巻13盗塁

【準々決勝・八学光星－木造】八学光星は７回、四球で出塁した光田昌太郎が、この試合３つ目の二盗を決める＝青森県営

打線も好調 ２年ぶり４強入り

八学光星が「足」で魅せた。木造の先発加藤綾人は走者を出した際、クイックモーションが遅いことを見抜き、塁に出るや次々と走り、八回までに13盗塁。さらに好調な打線が火を噴き、３試合連続のコールド勝ちを飾った。仲井宗基監督は「夏の大会はデータ班を含めた総力戦。それが結果としていい形になって現れた」と胸を張った。

初回は満塁の好機を得ながら無得点。しかし、１４０キロを超す直球を持つ相手主戦の投球やくせを、じっくりと確認するには十分な時間ともなった。

ハイライト

二回、先頭で田中颯也が四球で出塁。すぐさま、この試合１つ目の盗塁を決めると、塁に出た選手は次々と二塁へと突き進み、相手の暴投と安打を絡めて３点を先制した。

三回は相手が警戒するも、フェイントでプレッシャーをかけるなど、チーム内で「走る意識」は継続。四回以降は、盗塁からすぐさまタイムリーという効率の良い得点パターンが生まれ、相手を走力で振り切った。

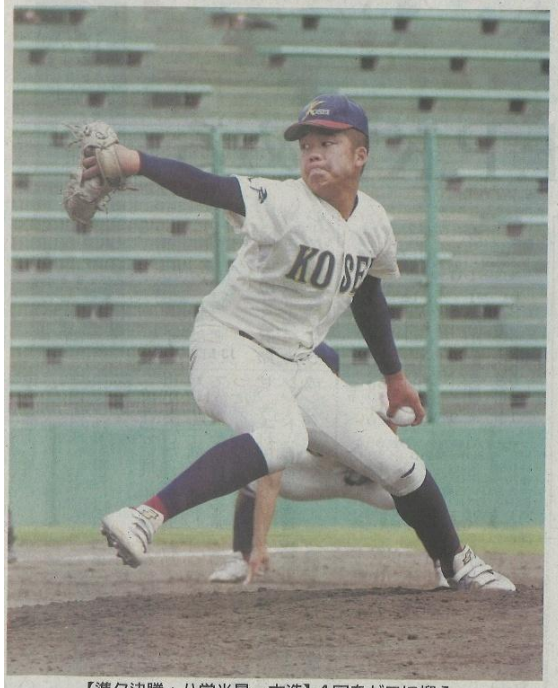
３盗塁を決めた光田昌太郎は「足には自信があった。作戦が見事にはまり、チームとして会心のできだった」と強調。「目の前の試合に集中し、全員がそれぞれの力を発揮して次も勝利したい」。言葉にこそしなかったが、その目は確実に2年ぶりの〝大舞台〟を捉えていた。（小嶋嘉文）

先発柴田 勝負強さ光る

○…八学光星の先発を務めたのは柴田煌輝。直球と変化球を織り交ぜた投球で、四回までを無失点で抑える好投を披露し「バックを信じて投げ込むことができた。次の試合に向けた大きな自信にもなった」と力を込めた。

初回を3人でシャットアウトする見事な立ち上がり。四回には2死満塁のピンチを招くが、冷静に三振で切り抜けるなど勝負強さが光った。

昨秋はエースナンバーを背負うも、春季東北地区大会はけがでベンチ外。今大会は、背番号20を着けて挑んでいるが、「背番号は意識していない」ときっぱり。「自分らしく、勝利に貢献する投球を見せていきたい」とさらなる活躍を誓った。



【準々決勝・八学光星－木造】４回をゼロに抑え、試合を作った八学光星の先発柴田煌輝

第6日

第107回全国高校野球選手権青森大会第６日は19日、青森県営球場で準々決勝２試合を行った。八学光星は木造を10－２で下し、２年ぶりの準決勝進出。青森山田は弘前南にコールド勝ちした。

第７日は20日、同球場で準々決勝２試合を行う。（取材班）

準々決勝

八学光星	0	3	0	3	0	3	1	10		
木　造	0	0	0	0	0	0	2	2		

（7回コールド）

（八）柴田、佐藤、及川－米澤、山木

（木）加藤、相馬－高橋

▷二塁打　久保（八）

▷暴投　及川（八）加藤３（木）▷捕逸　高橋（木）

▷試合時間＝２時間６分

（球審＝長内、塁審＝宇野、澤田、関）

【評】八学光星は二回、１死一、三塁で光田の三ゴロの間に１点を先制すると、押田心の適時打と暴投絡みでさらに得点を挙げた。その後も着実に加点。13盗塁の走塁も光った。

木造は先発加藤が６回９失点と踏ん張れず。打線は七回にようやくつながり２点を返したが、最後は力尽きた。

【八学光星】	打	安	点	振	球
⑧　光　田	3	1	1	0	2
⑥　押田心	5	1	1	1	0
⑨　田中颯	3	3	2	0	2
⑦　久　保	5	2	2	0	1
②　米　澤	4	0	0	1	0
2　山　木	0	0	0	0	0
③　山　上	4	0	0	0	0
R　3　田中太	0	0	0	0	0
⑤　田中颯	3	2	2	1	1
④　押田小	2	0	0	1	0
H　4　関	0	0	0	0	0
①　柴　根	2	0	0	0	0
H　新　田	2	0	0	0	1
1　佐　谷	0	0	0	0	1
H　佐　藤	0	0	0	0	0
1　周	1	0	0	0	0
1　及　川	0	0	0	0	0
犠	盗	失	併	残	
0	13	2	0	10	3
4	12	8	5	7	

デーリー東北新聞社提供